がん予防・啓発・療養支援について

資料３

① 現状・課題

◆ 第2次健康くさつ21における評価

75歳未満の悪性新生物による死亡者の減少について、男女ともに目標値を達成したものの、胃がん(女性)、肺がん(男性)の死亡者は、目標値を達成せず、全国より高い。 過去の2年間以内のがん検診の受診状況は、胃がん:約4割、肺がん:約2割、大腸がん:約4割、乳がん:約5割、子宮頸がん:約5割(アンケート調査結果より)。がん検診受診率は目標値を達成せず。

【死因状況】

草津保健所管内での死亡率[28]順位			1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
			悪性新生物[7]	心疾患[32]	老衰	脳血管疾患[47]	肺炎	不慮の事故	血管性および不明の認知症
草津市	死亡数	1,000	273	164	85	65	50	41	18
	死亡率[28]	691.8	188.9	113.5	58.8	45.0	34.6	28.4	12.5
	年齢調整死亡率[46]	854.1	233.2	137.6	72.8	55.8	43.9	34.6	14.3
滋賀県	死亡数	13,674	3,571	2,099	1,486	905	573	430	238
	死亡率[28]	970.4	253.4	149.0	88.6	64.2	40.7	30.5	16.9
	年齢調整死亡率[46]	913.7	250.0	138.5	90.2	60.5	37.7	29.1	14.9
全国	死亡数	1,439,856	381,505	214,710	152,027	104,595	73,194	38,355	22,343
	死亡率[28]	1172.7	310.7	174.9	123.8	85.2	59.6	31.2	18.2

◆ 第3次健康くさつ21における方向性及び課題

がんは、本市の死因の第1位であり、罹患者や死亡者は今後も増加していくことが見込まれる。予防可能ながんのリスク因子である喫煙や飲酒、身体活動、肥満・やせ、野菜・果物不足、食塩の過剰摂取等に対する取組や早期発見・早期治療のためのがん検診の受診等、『ライフステージに応じた切れ目のない取組』が重要。また、次のライフステージや次世代における健康課題の解決にも繋がることから、ライフコースアプローチ※1の観点を踏まえ推進することが必要。

本市においては、若い世帯の流入が多い市であることから、若い頃から、がんの予防、検診、治療、療養に関する正しい情報を持ち行動することが重要であることから、地域や職域、学校等、様々な集団や場面等、様々な機会を通じた啓発や環境づくりを更に進めていく必要がある。

※1 ライフコースアプローチについて

胎児期～高齢期の人の生涯を経時的に捉えた健康づくり
現在の健康状態がこれまでの自らの生活習慣や社会環境等の影響を受ける、あるいは次世代の健康にも影響を及ぼす可能性があり、誰一人取り残さない健康づくりを目指して、健康づくりをすすめる必要がある。

② 実施事業

◆ がんに関する正しい知識の啓発及び予防に向けた取組

◇がん検診方法、受診の必要性について周知
- ・健康イベントにおける啓発(幅広い世代に向けたがんや検診、乳がん自己触診法等の啓発)
- ・イオンシネマでの啓発動画※2の放映及び配信(イオンシネマ、市公式YouTube)
- ・広報くさつへの啓発記事の掲載
- ・健幸都市賛同事業所への受診啓発資料の配布
- ・がん検診受診勧奨通知内に、がんや検診受診に関する情報の記載
- ・協定締結先の保険会社の外交員による啓発チラシの配布等

◇生活習慣病予防啓発
◇学校教育過程によるがん教育
◇子宮頸がん予防ワクチンに関する啓発及び接種体制の整備

※2 啓発動画について

『がん検診受診の大切さ』を呼びかける動画。イオンシネマでは、今年度8月2日～11月28日に放映しており、市公式YouTubeでも配信している。

課題 それぞれのライフステージにおいて、がん予防の必要性や、がん予防に向けた生活習慣、必要な検診受診等、正しく理解し行動することが必要。特に、がんは自分も罹患する可能性のある疾患という認識が薄い若い世代には、行政からの一方的な発信では、正しい情報が届きづらい。がん検診の対象年齢になってからがん検診を意識するのではなく、幼少期から、がんの知識を学び、自然と予防行動・受診行動がとれるよう、がん教育・啓発が必要。

◆ がん検診

◇受診勧奨
- ・69歳までの各種がん検診対象の市民に個別勧奨通知の発送
- ・大腸がん検便キットの送付(対象:過去3年以内に受診歴がありR5年度に受診歴のない方)
- ・子宮頸がん、乳がん検診無料クーポン券の発送
- ・特定健診受診券や勧奨通知へのがん検診受診勧奨に関する内容の掲載

◇検診実施体制の整備
- ・草津栗東医師会に委託し個別医療機関で検診の実施
- ・市内会場における特定健診とがん検診が同時に受診できる集団検診の実施

◇検診精度管理
- ・健(検)診検討委員会の開催
- ・肺/胃がん精度管理を草津栗東医師会に委託(精度管理委員会及び従事者講習会の開催)

課題 職域等の実態が把握できていない。市民が、必要ながん検診を受診できるよう、職域等の団体と連携が必要。また、がん検診の受診率向上に向けた取組を進めているものの、肺／大腸／胃がん検診は若い世代の受診率が特に低い状況がある。

◆ がん患者やその家族に向けた取組

◇がんやがん患者に対する情報発信
◇アピアランスケア※3支援事業助成金

※3 アピアランスケアについて

がん医療の進歩により治療を継続しながら社会生活を送るがん患者が増加する一方、がんやがん治療に伴う外見変化は、患者の苦痛度が強く、社会参加を阻害する場合がある。アピアランスケアは、医学的・整容的・心理社会的支援を用いて外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケア。

課題 がん患者のニーズを捉えきれていない。がんになっても安心して住み慣れた地域で生活し、必要な支援を受けることができる環境づくりをすすめることが必要。